

沖繩奪還・安保粉碎・11月佐藤訪米阻止

「安保非常体制」初日

十・一集会に集まれ

反戦青年委員会

連絡先(九八四)八六五一

佐藤内閣および警視庁は十月一日から「安保非常体制」に入るといふ支配階級としての非常事態宣言の下に異常な危機感をもってわれわれの運動に臨んでいる。佐藤訪米阻止を中軸とする十一月決戦を未然に弾圧し尽すというのが彼らの狙いだ。

このような緊張状況下の困難な中で開かれる首都のどまん中の集会はそれだけに闘う者の多くの注目を集めている。沖縄奪還・安保粉碎・佐藤訪米阻止の闘いは、警察国家の強権支配には絶対に屈せず、十一月決戦にむけての大衆的雄叫びを断平し、安保非常体制の初日に反戦集会として組織するのだ。

すでに学生戦線は九月五日、日比谷公園に三万四千名を結集して全国全共闘連合の旗脚をかちとった。

六〇年安保の全学連を大きく凌駕する戦列がすでに学生戦線では全大学バリエード構築として進みつつある。

七〇年安保の新たな主役として登場しつつあるわれわれ反戦派労働者は、社会党や総評が何と云おうとすでに方をこえる隊列を組織しうる程度には成長した。このエネルギーを一層かき立て力をためこみ、飛躍的に力量を増大させて十一月決戦機発を保障するためにわれわれの決意を表明し、賛同者とのスクラムを固める場をここに準備した。

「安保非常体制」を打ち破り、破防法、騒乱罪に屈しない反戦派労働者の魂をこの集会ではっきりと満天下に示そうではないか。

沖縄奪還・安保粉碎・11月佐藤訪米阻止

十・一反戦集会

映画 「エンボキの日記」 大島 渥監督

講演 全学連(中核派)委員長 金山寛巳

社会党代議士 岡田肇夫

挨拶 沖縄学生斗争委員会/華僑青年斗争委員会 他

決意表明 反戦青年委員会

日時 十月一日(水) 午後六時

場所 全電通会館(お茶の水駅下車)

主催 反戦青年委員会(千代田、中央、世田谷、杉並、中野、新宿、渋谷)